7.リーン川ほ

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30 TEL088-821-2052 **四国山の日** FAX088-821-4834 ホームページアドレスhttp://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/ 電子メール shikoku_soumu@maff.go.jp



No.1151 2016年2月号

四国森林・林業研究発表会を開催

63 回を迎えた研究発表会は、当森林管理局・各署等のほか教育機関、自 治体、各研究機関等から民国連携した取組や自然保護、ニホンジカによ る食害対策など20課題が発表されました。 【詳細は2頁】



「山に遊び 山に学ぶ」 高知県立四万十高等学校の発表

四 玉 森 林 • 林業研究発表会を開催

〈技術普及課〉

理局 大会議室において、「平

旦

四国森林管

す。」と挨拶がありました。

六三回目を迎えた今年の

成二七 研究発表会」 年度四国森林 を開催 しま 林業 L か教育機関、 研究発表会は、

自治体、

各研

局署等の

ほ

た。

た。 まず、 大山局長から「発 取組や自然保護、 究機関等から民国連携した

環境教育など多くの今日的 ニホンジカ食害対策、 森林

課題についての研究成果で

ります。 発表される方々が

取り組んでいる課題が、

れ カコ 0 森林づくりなどに

反映されることを期待しま

特に、

今回の特徴として、

記入して頂きました。後日、

ک

あり、

り大変有意義な内容であ

あ

備、 表 される課題は、 森林整

木 材利用を始め、 治山

課題 (特別発表を含む)

カによる食害対策など二〇

ニホンジ

が

発表されました。また、 高

知県立高知工業高校、 高知

県立四万十高校から、 学習

活動の一環として取り組ん

でいる内容について発表が

会場から多くの拍手

が 送られました。

> パ 発 ワ 表 0) ポ 内容は勿論 イントに動画を挿 のこと、

易い 治体、 数の方々の来場がありまし はもとより民間事業者、 聴講者は、 配慮が見受けられまし 研究機関や学生など多 局署等職員 自

版 の広報誌や発表課題の詳細 会場口 (安芸署)、平成二七年度 ビーには、 局署等

ネルなどを展示し、 四国山の日賞」受賞団体パ 「森林環

境教育における木工教室の

方々が手に取るなどひとと 見本」については、 訪れた

きの休息を与えていました。 今回、 新たにプレゼント

シート (発表者と聴講者が

繋がり、 備 え、 聴 振り返るもの)も 講 者に課題ごとに

付しました。

入するなど聴講者に分かり 審査の結果、

され、 題、 優秀賞一課題、 理局長賞として七課題 記念品が授与され 奨励賞三課題) 各受賞者に表彰状と ました。

す

ので一例を紹介します。

する感想をいただいていま

「プレゼントシート」

に

対

課題選出され、 事長賞、 表彰状が授

与されました。

策について、 林管理署の発表は、 最優秀賞に輝い た嶺北森 ニホン

れました。 組などと合わせ高く評 猟友会等との連携による取 報等の共有や民有林 ジカ生息調査・捕獲駆除対 職員の目撃情 地元 活価さ

り、 発表者、 開催にあたりご協力頂 聴講者は もとよ

ならない

課題であるため

このシートは各発表者に送

四国森林管

した。

※各発

表 者

 \mathcal{O} 贈

ŋ

物

ます。

ありがとうござい

ま

優秀賞三課 が選出 (最

また、 会会長賞としてそれぞれ一 日本森林技術協会理 日本森林林業振興

様々 容の完成度、 ました。 レ シートには、 発表でした。 『聴講された方からの ゼントシートをいただき な不安を抱えながらの 初めての発表で内 気になってい 発表態度など プレゼント プ

げていただいており、 後も継続して行わなければ ŋ た ほっとしました。 夫」を良かった点としてあ をできるだけ見ずに話す工 組み内容については、 「声の大きさ」や また、 「原稿 内 **今** 取 小

たし

きました方々に感謝い

ドバイスが書いてあり、 今後の方向性など様々なア う努力していきます。』と 後は、このプレゼントシー いに参考になりました。 のことでした。 トが良かった点で埋まるよ 大

優秀賞

●優秀賞

頁のとおりです。 審査結果は一〇頁から一一 なお、今回の発表課題と

各受賞者の皆様

四国森林管理局長賞

森林技術指導官 鶴内 和典





鷹野

孝司

氏





香川森林管理事務所 ●優秀賞 森林技術指導官



高知大学農学部 四回生 青木 遙 氏

奨励賞



奨励賞

植村木材有限会社 兀 万十森林管理署 事業部長 森林整備官 中平 酒井 克馬 博文 氏 氏 (左側) (右側

様

建築科三年生の発表者の皆

高知県立高知工業高等学校

●奨励賞





東別府 路網計画係員 佐野

森林整備課 路網整備係員 友紀 氏 (右側

省伍

氏

(左側)



愛媛森林管理署 日本森林林業振興会長賞 西条・石鎚森林事務所

地域統括森林官 係 森本 吉男 氏 (左側

森林保護員 別宮 西川 隆英 大貴 氏 氏 中 (右側 央

請負事業体の労働災害

防止に係る安全会議 0 開催

総務課

局大会議室におい 二月三日、 四国森林管理 て、 「請

係る安全会議」を開催しま 負事業体の労働災害防止に

した。

この会議は、

施に当たり、 理 一局管内の請負事業等の実 発注者・事業

 \mathcal{O} 大災害 確保を共通 撲滅はもとよ の認識とし、

重

0

主 •

現場従業員が労働安全

期することを目的として開 労働災害の未然防止を

一日は、 当局管内で平 成

催したものです。

販売買受者である八九の事 実績のある事業体及び立木

がありました。

四国森林管 長の挨拶の後、 Ш 総務企画 最初に、 部 入

担当職員より、

過去三年間に

林 局 几 管内 で 玉 発 森 生 林 0 L 玉 管 た 有 理

請 害の 負 事 業 分 析」、 等 \mathcal{O}

一七年度に請負事業の契約 に 平成二七年度 発生した災

> 害の概要と類似災害防 て担当課長より、 等の説明を行 四四 1国森 続い 止対

業労働災害防止規程の改正 止対策」、 害等を踏まえた類似災害防 「林業・木材製造

業体等から二〇三名の参加

林管理局で発生した重大災 交換」

概要」等の説明を行った後、 「労働安全確保に係る意見

営トップの労働安全衛生に

関する責任と義務について

題して講演をいただき、

全衛生の推進について」と

義彦氏より「

「林業の労働

安

サルタント事務所の門

田

最後に、

門田労働衛生コ

として、 説明していただきました。 を改めて確認し会議を終了 防止に向け、 もとより、 止に係る安全会議」 請負事業体の労働災害防 当局では、今回実施した 重大災害の撲滅は 労働災害の未然 取り組 を契機 む 決意



労働災害防止講習会

しました。

を実施しました。

リストの会会長賞 (森林保全部門)] 一部門で受賞 玉 有林野事業業務研 ! 林 (森 日 野 林技術 本 庁 林 究発表会 長 政ジ 官 部 賞 門 ヤ 優 秀賞 ナ

〈技術普及課〉

業業務研究発表会が一二月 一 〇 目、 平 -成二七 林 野庁にお 年度国有林野 1 て開 事

地

域

、連携による取組

[一]を

ます。

名勝

入野松原

0

再

生

から三部門に各 課題ず 0

発表しました。 森林技術部門では

カコ かり木の安全対策に 0

業務グループ て」を愛媛森林管理署 水田森林整

日 備 本林 官 政ジャー 武市係員が発表し、 ナリストの

た。

長官賞優秀賞を受賞しまし

会会長賞を受賞しました。

〇森林ふれあい部門では、

発表しました。 兀 森林事務所 林 事務所 万十森林管理署 林森林官、 中 村森林官が 浮鞭森 和

催されました。

今回

は、

四国森林管理局

技術 業務係長が発表し、 シ 囲 カ捕獲及び普及」を森林 森林保全部門では、 いわなによる効率的 支援センター 林野庁 芹口

0 内容等については、 な お、 今 回 0) 研究発表会 林野

れた後、 推進されるよう期待して する多様なニーズに応えて 予定です。 は技術開発等 いくため、 今後とも森林・林業に対 各署等へ 各署等にお O取組を 配布する いて



芹口竜一氏・賞】 ・ ・ 【林野· 庁 一氏 長官賞 支援センター 優秀賞受

> 水田 英司氏(土) 一 英元氏(土) 一 泰典氏(土) 会会長賞受賞 【日本林政ジャー (中央) ナリストの

庁において発表集が作成さ

層

林 美樹也氏(左側)中村 正史氏(右側)四万十森林管理署 【森林ふれあい部門発表者】



「介良の祭り」で森林の大切さをP R

(技術普及課)

た。 良小学校におい 室と木工教室を実施しまし これは、介良小学校から、 月二 兀 H 高 知 森林教 市 立介 祭り」 体 \mathcal{O} Š 験活動を通じて森林 子 れ 0 が あ として、 0 参 体験学習コ 1 加 参観 す る 木工 日 1 介良 制 ン ナ 作 1 0 0 0

た。 き続い があ 理解を深めさせたいと、 局に森林・ ったもので、 ての参加となりまし 木工教室の依 昨年に引 頼 もらいました。 行い、 もらうための学習を 木に親しみを持って 正

理解を深めて

室には二〇組の親子等の 加がありました。 が設けられ、 <u>-</u> -の 森林・ 体験コー 木工教 ナ 参]

当日

は、

地

地域の方

々の

協

t

0

0

〇間中八

が

工解者は

いなかった

問の正解者が三

ました。

はじめに、 クイズにより

参

ら六年生の高学年

0

木工は、

四年生か

木工教室、皆さんうまくできるかな。

当



加のためか、 する子どもを 作成

少なかったです。

L

したが、

高知市立第六

見守る父兄が

間が るか、 上げ 父兄を呼んできて仕 カコ 丁寧に仕上げようと Ľ ていた児童が、 の色を何色にす ないと慌てて、 などと相談し 後半になると 時

> 組まないといけないと、 となく、 こちらもマンネリ化するこ れている児童が数人いて 毎年この教室を選んでく 創意工夫して取り

に

引き締まる思いと同 時 気 す。 してくれることを願

1

ま

に、 に思う気持ちが児童に浸透 や林業に関心をもち、 触れることによって森林 これからますます、 大切 木

里 帰 ŋ した校庭の アカマ ッ 植 樹

~児童に植え付けの指導~

(技術普及課)

ジーセミまで作製すること 間に余裕を持って、 ができました。 ほとんどの子が時 ジー 二月九日、

ŧ に入った作品だけに、 を聞きましたが、 「楽しかった。」などの感想 「色塗りが大変だった。」 素敵な仕上がりとなり 自分が気 どれ

クイズ形式の森林教室、

正解は?

させる姿が見られま

ました。

ながら

一生懸命完成

校長先生から た校庭のアカマツ苗 植樹が行われました。 小学校において「里帰りし 昨年末、 第六小学校の 「校庭に植え 未 \mathcal{O}

るがどうすれば良い られているアカマツ の相談が技術普及課に寄せ 百年超) の樹勢が衰えて か (樹齢 لح

> る巨樹 ター 総合研究所林木育種セ を紹介しました。 \mathcal{O} られました。 西育種場) 「林木遺伝子銀行一 クロ 関西育種場 1 名木等の遺伝資源 ン が取り組んでい 増 そこで、 殖 (以下、 サ] ○番」 森林 F ス 関

種場の指導のもと、 昨 年一 月二九日 このア 関 西育

が順 る増 報 その は、 関 一三九号参照 調に生育しこのたび第 殖 西 後、 が 育種場で接ぎ木によ $\overline{\bigcirc}$ 行わ 接ぎ木した苗 五年二月号 れました。 詳 木 No.

力

7

ツ

0

穂木を児童

が

採

取

になりまし 六小学校 里帰りすること 童 植 力 実

導を行 及課 木 \mathcal{O} $\dot{\mathcal{O}}$ 下 当 たべ、 は、 贈呈が行われ、 日 は、 いました。 苗 関 親 西育種場 木 -の植 木 のア え方の 植 付け 技術 カン 力 ?ら苗 7 を 指 普 ツ

樹を行いました。 が 7 ツ \equiv \mathcal{O} 一班に分かれて記念 穂木を採取 L た児

施する児童は、

昨

年、

ア

た。 童たち 学校を見守ってい たことに 周 た木札も標示 た苗木 囲 植 また、 樹 植える機会に恵ま は、 後 を、 は、 感激 この取 自 児童 分たちが採取 しました。 百年を超えて L て 、る親・ 名が 組 温は、 1 ま 木 入 児 地 0

元テレビ局等の取材を受け 映され・ そ 伝えられまし 0 な お、 日 広 \mathcal{O} < 夕 後 方に 県 月 た。 民 放 植 12

たの 樹 文 力 が 7 L た ツ 寄 掲載し を思 児 せ 5 童 う れ カコ ます。 感 ま 5 想 L T

あ

111

た

0) 見

1/4 K

٤ 第

1

11

0)

院を受

水

甘

木直

H28

強

心え方の説明へのアカマツの の 下 で、 苗 け児 の童 様名子が 入 っ た木札と植 え

の親

植木





各地のたより



〜市町・県職員に向けて〜 者の安全指導会」開催 森林整備事業発注担当

〈香川森林管理事務所〉

林整備事業発注担当者の安 ポ ル 讃岐にお 「森

月一二日、

高松市

0

ル

全指導会」を開催しました。 これ は、 林業の成長産業

を実現していくため、 化やそれを通じた地方創 適切 生

な森林整備を推進する必要 があるもの 0 林業におけ

る労働災害の発生は他産業

に比 べ 依然高 傾向にあ

る

ことから、

労働災害撲滅に

向け、 事業発注担当者を対象に、 各市町等の森林整備

これまで国有林で培ってき

た災害防止対策等を説 支援する目的で開 催い 明

たしました。 当日は七市町の担当者八

加を得て、 林業・木材製造 名と県の担当者五名の

参

部の陶山安全技能師範と当

業労働安全防止協会香川支

り、 所の森林 森林整備を実施するに 技術指導官によ

ĮΙΚ 当たって、 払機を取扱う際の注意す チェーンソーや

を使用する場合に必要な資 きことや高性能林業機械

と題し、

田口森林整備部長

説明に参加者も興味深く傾

格 教育等に 0

て講 議を行 1 ま

た。

製造業労働災害防 規則や林業・ から労働安全衛生 な かでも、 木材 昨 年

倒時 止規 たことにより、 0 程が改正され 立入禁止区 伐

出機 域の拡大や木材伐 械等が新たに

ど、 規制の対象になったことな これまでと大きく変更

されたことを中心に説明し

ていただきました。 また、 最新の森林・林業・

森林資源を活かすために」 木材産業について「地域の

森林整備事業発注担当者の安全指導会



から講演いただき、 「事業

であり、 体と行政の連携がポイント 高めるとともに、 技術力と安全性を 生産性も

に お 上げる努力をすることで、 なれ 互. 1 る が win・winの 等のわ かりやす 関係

進していく考えです。

聴していました。

等の意見が寄せられ、 でも作業に対する知識をつ できるよう、 た。」「最新の労働安全の 現状等についても話を聞け のうちに閉会しました。 ける必要があると感じた。」 になった。」 向が勉強できて非常にため 全だけでなく、 当所では、 加者からは、 「適切な指導が 今後ともこう 発注者サイド 林野行政 「労働安 好評 動 \hat{O}

図るとともに、 よる共同施業についても推 県や市町等との連携強化を した機会を多く企画して、 民国連携に

勉強会 「リスクアセスメント 開催

(香川森林管理事務所)

月一五 月 香川森林管

者等会議に併せ、 リ ス ク

理事務所では安全管理担当

アセスメント勉強会」 を開

0

です。

催しました。

は、 本年度、 全職 員 四国局において 0 日 頃の 取 り 組

てい ないもの 0 請 負事業

みにより公務災害は発生し

在二一 等に おいては、 件の労働災害が発 一二月末現

生 (当 「所管内においても一

件発生)するとともに、 重

大災害に準ずる災害も発生

するなど、

憂慮すべき事態

メントの進め方等の知識に

働災害防止協会の講師も務

に効果が大きいことを改め

となってい るこ

勉強会の様子

所 とを踏まえ、 0 取 ŋ 組 みと 当

して事業発注 者

して 監 督 の安全知 職 員) لح 識

 \mathcal{O} L 7 向 開催 上を目 L たも 的 لح

メントについて リスクアセ ス

度請負事業体等労働災害防 は、 平成二七年

止対策においても推奨して

5

今回はリスクアセスメ

業体においては必ずしも完 いるところですが、請負事

全に定着しているとはいえ ないこと、また、監督職員

等においてもリスクアセス

乏し い職員もいることか

ントに的を絞り、 全職員を

対象に実施しました。

の安全管理に知識が豊富で 勉強会の講師には、 林業

あり、 林業・ 木材製造業労

お願い められている宮本光芳氏に しました。 勉強会の

前

半は講義を中心に行

V

後半は 班それぞれ事例を選択 兀 班に分かれて、 ľ 各

の評価、 リスクの見積り、 ④リスク低減対策 ③リスク

①危険因子の洗い出し、

2

V) の検討、 最後に各班の代表が結 ⑤内容の記録を行 お

果を発表しました。 各ステップでは、 各班とも な

組

んでいく考えです。

始真剣に取り組みました。 活発な意見を交わすなど終

が、 は 厳 林業現場を取り巻く環境 L スクを少しでも軽減 1 状 況にあります

するためには、 メント IJ \mathcal{O} 取り 2組みは: リスクアセ 非常

ス

なりました。 て意識させられた勉強会と

が果たせるよう今後も取 害の未然防止のため、 欠ではありますが、 アセスメントを実践するに 定着に向け少しでも発注者 は請負事業体の意識が不可 (監督職員) としての責任 請負現場で実際にリスク 労働災 その



平成 27 年度四国森林・林業研究発表会 発表課題及び審査結果

発	発表課題	発	表 者	一審査結果
発表順	発表課題	所 属	氏 名	音 1
1	傾斜付横断溝の現状と課 題	四国森林管理局森林整備課 路網整備係 路網計画係	佐野 友紀 東別府省伍	日本森林技術協会理事長賞
2	下刈省力化とニホンジカ 害対策に向けた新たな試み について〜エリートツリー の植栽とニホンジカ食害防 止クリップの導入〜(経過 報告)	高知中部森林管理署 別府森林事務所 森林 官 四国森林理局 森林技 術・支援センター所長	小松 大高 山﨑 忠男	四国森林管理局 長賞(優秀賞)
3	森林環境教育の実践手法	四万十川森林ふれあい推 進センター 自然再生指導官 自然再生指導官	川村 春喜 曽我部 稔	
4	フォレスター活動の取組	香川森林管理事務所 森林技術指導官	鷹野 孝司	四国森林管理局 長賞(優秀賞)
5	石鎚山系におけるグリー ンサポート スタッフの軌 跡	愛媛森林管理署西条·石 鎚森林事務所 地域統括森林官 係員 森林保護員	森本 吉男 西川 大貴 別宮 隆英	日本森林林業振興会長賞
6	穴吹川地区大剣谷にお ける森林表土利用工の施 工事例	徳島森林管理署 治山技術官 穴吹川治山事業所 治山技術官 日本植生株式会社 技術1課 課長	森浦 由照 菊池 裕揮 中村 剛	
7	三次元リモートセンシ ングによる森林構造の把 握	高知大学 准教授 高知工科大学 教授 日本森林林業振興会 高知支部長	松岡 真如 高木 方隆 川上 利次	
8	久万林業の新たな取組に ついて〜林業躍進プロジェ クトの達成に向けて〜	愛媛県中予地方局久万高 原 森林林業課 主任	松本大樹郎	
9	素材生産における技術 交流の促進〜民国事業体 が連携した技術研修会の 実施〜	四万十森林管理署 森林整備官 植村木材有限会社 事業部長	酒井 克馬中平 博文	四国森林管理局 長賞(優秀賞)
10	土佐市新居緑地公園 あずまや 四阿製作	高知県立高知工業高等学校 建築科3年生	稲本 誠也 中山 雄貴 川村 拓大 西田 竹 種田 透 松田 星貴 近森 風威 山本 智也 寺尾颯一郎 和田 翔太 中沢 尚哉	長賞(奨励賞)
11	嶺北森林管理署管内に おけるニホンジカ生息調 査及び捕獲・駆除対策に ついて	嶺北森林管理署 森林技術指導官	鶴内 和典	四国森林管理局 長賞(最優秀賞)

発	5v ± == 85	発	表 者	京本 44 田
表順	発表課題	所属	氏 名	審査結果
12	我が署におけるこれまで のニホンジカ対策の検証と 今後の方向性について	四万十森林管理署 窪川・中津川森林事務 所 係員	松林 玄悟	
13	ニホンジカの生息密度と 明るいヒノキ人工林の下層 植生との関係について	高知大学農学部 4回生	青木 遙	四国森林管理局 長賞(奨励賞)
14	三嶺山系におけるニホ ンジカ駆除の取組につい て	高知県鳥獣対策課チーフ (被害対策担当) 四国森林管理局 企画官	門脇 義一 藤丸 功	
15	管内におけるニホンジカ 被害対策の取組について	高知中部森林管理署 森林技術指導官 主任森林整備官	石田 俊郎 豊永 憲文	
16	ヤナセスギ択伐施業モデル林の現況と今後の施業 の取扱に関する考察	安芸森林管理署 大井森林事務所 森林官 魚梁瀬・西川事務所 係員	永石 達也 有働 貴史	
17	山に遊び 山に学ぶ	高知県立四万十高等学校 自然環境コース2年生 自然環境コース1年生	吾妻 勇哉 谷脇 春樹 宮脇恵	四国森林管理局 長賞(奨励賞)
18	四国地方におけるエリートツリーの開発と四国森林管理局との共同植栽試験について ※特別発表	森林総合研究所 林木育 種センター 関西育種場 育種課 育種技術係長 遺伝資源管理課 四国増殖 保存園管理 係長 育種課長 育種課長 育種課長 育種課育種研究室長 遺伝資源管理部分類同 定 研究室長	篠崎 夕子 河合 貴之 久保田正裕 三浦 真弘 磯田 圭哉	
19	高知県に導入された外 国製林業機械について ※特別発表	高知県立森林技術センタ ー 森林経営課チーフ	山﨑 敏彦	
20	スギ・ヒノキの天然更新 の可能性を考える ※特別発表	森林総合研究所四国支所 産学官連携推進調整監	杉田 久志	